

Nibroll - THIS IS WETHER NEWS

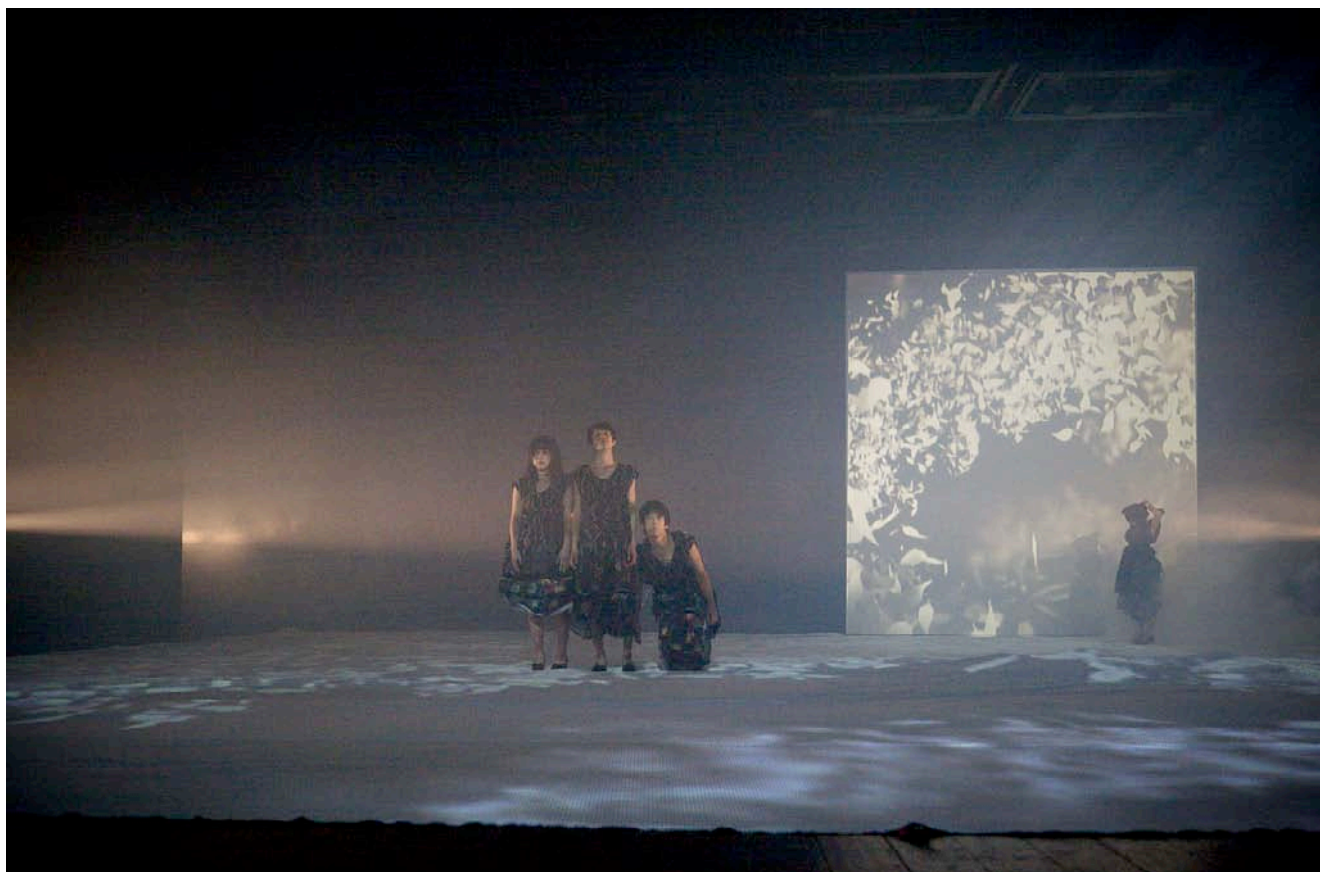
プレスリリース

\*ニブロール新作公演 3年半ぶりの東京公演で初のロングラン公演！  
あいちトリエンナーレ2010にて世界初演！

---

# THIS IS WEATHER NEWS

---



\* 2011.6.24 (Fri) ~ 7.3 (Sun) at シアタートラム

---

例えば、平均寿命、地球温暖化、時刻表。

～これらは全て「天気予報」みたいなもの～

「こうしたら、ああなるだろう」と予定調和を前提にして生きる現代において、現代批判でもなく、回顧主義でもなく、信じてきた価値観が崩壊したと言われても生き続けなければならない私たちのこれからを提示していくことを目指した作品。

「ロミオ OR ジュリエット」から3年半ぶりの東京公演となる本作品は2週末にわたる、ニブロール初ロングラン公演となります。あいちトリエンナーレでの公演から、さらに推敲を重ねた本作品に是非ご期待ください。

■お問い合わせ プリコグ(担当 奥野・山崎) 03-3423-8669

info@precog-jp.net

---

---

## 作品コンセプト

---



「私はいつも想像してみる。こうなればいい、こうなればいいって。でも、そうなることなんてほとんどない。でも、それが悲しいとは思わない。ただ、切ない。時に、それは楽しい。きっと、そんなことの繰り返しのなかで生活がつくられる。」

(主宰・矢内原美邦)

本作は「こうしたら、ああなるだろう」と予定調和を前提にして生きる私たちの現代について考えてみようと思います。

10周年を終えたニブロールの新作は、現代批判でもなく、回顧主義でもなく、信じてきた価値観が崩壊したと言われても生き続けなければならぬ私たちのこれからを提示していく作品でありたいと思っている。

朝起きて、ネットを立ち上げて、天気予報のチェック。今日の気温は？ 降水確率は？ 着ていく服がようやく決まる。駅のホームには、時刻表に沿って分刻みで到着する通勤電車。どこかで起こった人身事故にイライラしながら、待つこと5分。謝罪のアナウンスで、少しだけ納得する。私たちの日常は、こんな場面で溢れている。いつも、「こうしたら、ああなるだろう」と、世界を予定調和に捉えて暮らしている。これは、まさに“現代文明病”だと思う。街を一步飛び出せば、つまづいた石に文句を言う相手はいない。ヨガ教室にせっせと通うあの子の顔にはニキビができて、多くの命を救った近所の名医は、癌であっさり亡くなった。「こうしても、ああならない」本当は、まったく予定調和じゃない。血液型の本がベストセラーになることも、学校に乗りこむモンスターペアレントの誕生も、金融工学を使ったサブプライムローンも、街中に張り巡らされたセキュリティ装置も、みんな、「こうしたら、ああなるだろう」と予定調和を信じてしまう現代文明病。とはいえ、私たちも文明人であることからきっと逃れられない。

## 企画・演出

**【振付】** いわゆる「ダンスのテクニック」ではなく、日常生活にあるような仕草や動きだけで「表現」となり得るようなものを模索する。

**【映像】** あらかじめ決定づけられた、作為的に投げかけられたものが、舞台上にある身体、時間、空間と、密接に関わり、相互的に関係し合うことによって変容していく物語を描く。そのような装置を複数台プロジェクター、モニター、ライブカメラを用い、それらを統合するプログラムによって構築する。

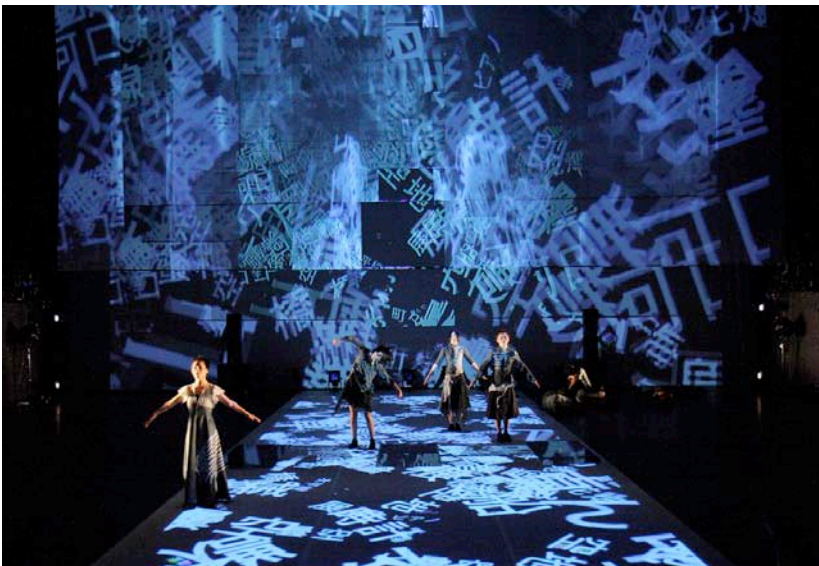


**【美術・衣装】** 「偶然を受け入れるレベルでなく、偶然から始め、目を背けたくなるようなカオスの中に、静寂な秩序が見える」を目指し、これまでのように衣装製作することを前提に関わるのではなく、作品全体を考え、絵画を描くことから始める。



**【音楽】** 生演奏の音、記録された音をリアルタイムに分解、ループ、エフェクトから再構築（複数）する事で多様性を出し、複数のスピーカーをコントロールすることで空間（距離、時間）の変容にリアリティーを持たせる。

## ニブロール プロフィール



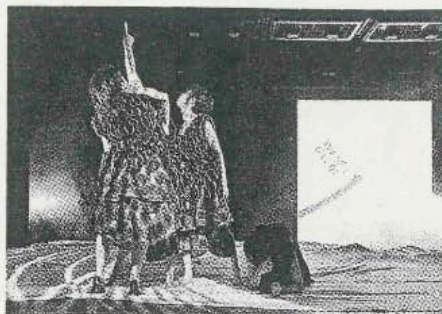
1997年結成。振付家、映像作家、音楽家、ファッションデザイナー、照明美術家、ジャーナリストなど、各分野で活動を行う表現者を中心に、作品テーマごとにさまざまなアーティストが参加。舞台空間を中心に作品発表を行いつつ、美術館でのビジュアル作品の発表など、既成の枠に捕らわれず新たな「アート」としての表現を迫っている。東京を主な活動拠点としながら、欧米やアジアなどでも作品を発表し、注目を集めている。

■ ウェブサイト <http://www.nibroll.com/>

公演レビュー

舞踊

■ ニブロール「THIS IS WEATHER NEWS」



あいちトリエンナーレの依頼による新作=写真 南部 辰雄

あいちトリエンナーレは元来、美術のみならずパフォーマンス(身体表現芸術)をも含めた総合芸術祭を想定して企画された。具体的には多様なジャンルの展示や公演が同時多発的に行われるように仕掛ける、ということもさることながら、表現それ自体に複合性を備えた作品が多く選ばれている。このほどニブロールが上演した「THIS IS WEATHER NEWS」もその点で注目すべき舞台企画の一つだった(愛知芸術文化センター小ホール、22~24日)。

日常が生む摩擦と疎外感描く

プロデューサー・伊藤剛が合議しつつ創出した作品を、舞台、あるいは展示空間で発表してきた。今回はあいちトリエンナーレの依頼による新作の初演。わたしたちは未来を予測する方法を編み出し、それに沿って行動することが多い。だが、天気予報にさえ時折裏切られ苛立ちつつ時を過ごすことがある。この舞台上では日常的なそうした齟齬によって繰り返される人と人、人と物との心理的あるいは物理的な摩擦と疎外感が描き出される。例えば現実と映像空間との連続と非連続によって、身体や建造物の過増殖と崩壊、生と死が暗示される。不安と恐怖の末に抱き合った男女が、その瞬間に行動の不条理さに驚いて突っぱね合う姿は、かなしくもつい笑いたくなる。それは現代社会に広がる絶望と虚無の中でふと見上げた空にだけ残る青さに似る。かつてサミュエル・ベケットが追求し、またサイードがパレスチナの空に見た色なのかもしれない。そんなことを思い返す舞台だった。(演劇評論家 馬場 駿吉)

日経新聞 2010年10月28日



ニブロール THIS IS WEATHER NEWS 2010 撮影=南部辰雄 写真提供=あいちトリエンナーレ2010

動を提唱した、土方聖の舞踏論を彷彿とさせる。しかし、その自足的なダンスは、二人の男性による「彼女」への執拗なインテンションと身体的な攻撃によって中断される。そして、彼らの怒りも、彼らが入っていく家の壁に映し出される相対して座る二人のシルエットのなかから、互いに手を差し伸べるようなシルエツトが生まれ、重なりあうことで、中和されるような衣装や、女性ダンサーからは男の子の、男性ダンサーからは女性の、あるいは老人の声が発せられるという設定が、彼らの性差や年齢を曖昧にする。そうしたことのすべてに限定されない人間存在や状況の「複数性」を感じさせる。そして、読み上げられる暴力的な

行為の堆積、存在のゆらぎ チェルフィッチュとニブロールの上演の方法は、従来の演劇やダンスの定石から逸脱している。ここでは、キョウケターや筋に従って言葉や行為が展開し、美的理想に沿って身体表現が制御されるのではない。むしろ、日常の言葉や動作の積み重ねを通じて人物たちの内面が提示され、変化の様態を生み出す器としての身体が意識される思考と行為のプロセスとして、パフォーマンスが構築される。例えば、チェルフィッチュの2008年の演劇「フリータイム」では、朝のファミレスで短い自由時間を過ごす女性の思考が、複数の人物の異なる視点から意識の流れを写すように細かく分断する言葉によって語られることで、外側からは測り知れない彼女の記憶や感情の豊かさが明かされた。そこでは、言葉のパフォーマンスが、舞台にはない風情や状況を表出させ、語りに対して記号的な関係を保持しつつ、観客の想像力を刺激して、人物の心を直接覗き込むような気持ちにさせた。ニブロールのダンスでも、足を踏み出す、手を挙げるといった目的のない身振りの繰り返りから音や形が立ち上がり、身体の直接性が感じられる。同時に、抱きつかず、突き飛ばすという子ども遊びやけんかと思わせる動作や、細かなもの集積と分散を交互に映す映像や、性差を曖昧化する衣装などが、自らの感情を制御できない若者たちの苦悩と、自分た

行為の堆積、存在のゆらぎ  
チェルフィッチュわたしは無傷な別人である。  
ニブロール「THIS IS WEATHER NEWS」  
松井みどり 評

事件のニュースや、スクリーンに映し出される人間の顔の強さと思えるはかなさや宇宙の非情さを想起させる数字の質問が、ダンサーたちだけで、観客自身を「複数性」の体験の主体として位置付ける。それは、ダンスから演劇へ、ダンサーの審問から観客のそれへと、パフォーマンスの様態を刻々と変化させながら、人間存在のゆらぎの諸相を映し出す「天気予報」のような舞台だ。そのゆらぎの感覚は終盤も続き、一見すべてが消え、清浄な世が始まるかのようないい風景の背後で、すこし速くで緊迫する木の成長の連続する軌跡の映像が、世界は再び増殖と観合に向かうことを暗示する。一方で、決断と求愛を合体させたような二人の女性のダンスに代表される予測不能な動きの応酬や、不確定な人間の表現が、運命のプログラムを破る身体衝動の自由を感じさせた。

---

## 公演概要

---

ニブロール 『THIS IS WEATHER NEWS』

2011.6.24 (Fri) – 7.3 (Sun)

### <公演> (全6回公演)

6/24 (Fri) 19:30開演

6/25 (Sat) 15:00開演

6/26 (Sun) 15:00開演

7/1 (Fri) 19:30開演

7/2 (Sat) 15:00開演

7/3 (Sun) 15:00開演

※ 計画停電の実施などにより、公演日時が変更になる可能性もございます。随時、プリコグのウェブサイトおよび、プリコグの Twitter にて情報をアップいたします。

プリコグウェブサイト：<http://precog-jp.net>

プリコグ Twitter：<http://twitter.com/precogjp/>

### <会場>

シアタートラム

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1

TEL:03-5432-1526 <http://setagaya-pt.jp/>

<出演> カサヤマリコ、橋本規靖、鈴木拓郎 ほか

<Nibroll> 矢内原美邦、高橋啓祐、矢内原充志、スカンク、伊藤剛

### <チケット>

2011.4.23 (Sat) チケット先行販売 (先行予約特典として10%ポイント還元)

2011.5.7 (Sat) チケット一般発売

前売 3000円 当日 3500円 学生 2500円

劇場友の会 2700円 (前売のみ取扱) 世田谷区民 2800円 (前売のみ取扱)

チケット取り扱い:

Precog web shop <http://precog.shop-pro.jp/>

世田谷パブリックシアターチケットセンター TEL: 03-5432-1515

### <お問い合わせ>

プリコグ 03-3423-8669 [info@precog-jp.net](mailto:info@precog-jp.net)

主催: ニブロール 提携: 財団法人せたがや文化財団、世田谷パブリックシアター

後援: 世田谷区 共同制作: あいちトリエンナーレ2010 企画制作: あいちトリエンナーレ実行委員会

協力: 急な坂スタジオ 制作: プリコグ